

Press Release

2016年9月9日

**DMG 森精機と日本マイクロソフト
工作機械を中心とする制御システムのセキュリティ、
スマートファクトリーの実現に向けて技術協力で合意**

DMG 森精機株式会社(本社:名古屋市中村区、取締役社長:森 雅彦、以下 DMG 森精機)と日本マイクロソフト株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 社長:平野 拓也、以下日本マイクロソフト)は、工作機械を中心とする制御システムのセキュリティおよびスマートファクトリーの実現に向け、連携して技術協力していくことで合意しました。

近年、製造業における生産のグローバル化が急速に進展する中で、IoT(Internet of the Things:モノのインターネット)技術を活用して、工場内の全てのデバイスをインターネット接続し、工場内設備の情報やセンサーデータをクラウドでリアルタイム解析や、生産管理/品質管理の最適化を行う「スマートファクトリー」が注目を集めています。一方、発電所などのインフラサービスや一部の工場がサイバー攻撃を受けるなど、制御システムにおけるセキュリティ対策は喫緊の課題となっています。

こうした状況を背景に、世界最大の工作機械メーカーである DMG 森精機と、組み込み機器向け(Windows 10 をベースとしたオペレーティングシステム「Windows 10 IoT ファミリー」)からパブリッククラウドプラットフォーム(Microsoft Azure)まで幅広く IoT の基盤を提供し、グローバルレベルでの様々なセキュリティ対策の実績を持ち、最先端のサイバーセキュリティ対策の取り組みを展開している日本マイクロソフトが、それぞれが持つノウハウを結集し、制御システムが直面するセキュリティをはじめとする様々な課題を解決するために、技術協力を行っていきます。

具体的には、Industry4.0、スマートファクトリーの実現に向けた以下のような技術協力を行います。

- ・ セキュリティに関連した取り組み
- ・ CELOS(工作機械コンソール)等の Windows を利用した製品のセキュリティ
- ・ センサー情報等をクラウドへ集約するための安全なデータ転送
- ・ クラウドにおけるデータの取り扱い
- ・ クラウドにおける運用と応用分野の検討
- ・ 集約したデータ分析に基づいた予防保全などのプロアクティブな活用
- ・ 新規ビジネスモデルの構築に向けた技術的な検討
- ・ 先端の IT 技術の活用
- ・ 機械操作員の安全のためのデータ活用
- ・ VR(仮想現実)/ウェアラブルデバイス等による機械操作員の作業効率の向上